

## 新任教授紹介

## 四国での皮膚腫瘍臨床研究拠点整備と人材拡充に向けて

皮膚科学講座 教授

藤澤康弘

私は診療の傍ら臨床研究を続けてきました。メインテーマは皮膚がん。一例をあげますと「メラノーマ」と呼ばれる皮膚の悪性腫瘍は、日本人と白色系の人たちとは病気の傾向や有効な治療が異なる場合があります。メラノーマの治験は海外で行われることが多く、そこで得られた治療法や治療薬はそのままでは日本人に合わないこともあります。そのため国内の多くの大学と協力してデータを集め、日本人に適した治療を研究してきました。

当院は皮膚科と形成外科が一つの講座（皮膚科学講座）を構成しています。2つに分かれている場合は皮膚の悪性腫瘍をどちらか片方でしか扱いませんが、ここでは垣根なく協力して治療や研究ができます。四国には皮膚腫瘍の専門家が少なく、私の役割は大きいと思っています。同時に、愛媛県内も皮膚科の医師が十分とはいません。学生や若手医師に皮膚科の魅力を伝えると同時に、多様な働き方を実現し、裾野を広くすることで、一人でも多くの皮膚科医を地域医療へと送り出します。皮膚科は女性医師が多い分野もあるので、一人一人の状況に合わせたキャリアを築く体制も整えたいです。



### PROFILE

ふじさわやすひろ ◎1998年筑波大学卒業、同大学臨床医学系皮膚科学教室入局。国立がんセンター中央病院や筑波大学附属病院の皮膚科で勤める。2018年筑波大学医学医療系皮膚科准教授となる。2022年5月より現職。趣味はゴルフ。